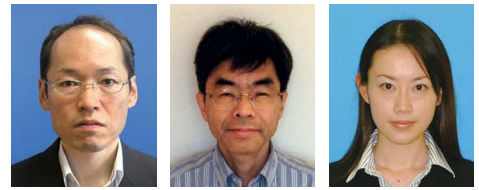


道路用遮音壁の景観にかかる事例集の作成



道路研究部 道路環境研究室 室長 角湯 克典 主任研究官(博士(工学)) 吉永 弘志 研究官 木村 恵子

(キーワード) 景観、遮音壁、道路交通騒音

2.

持続可能で活力ある国土・地域の形成と経済活性化

1. はじめに

美しい街の景観は人をひきつける魅力で街の価値を高め、経済、芸術および学問の発展にも好影響を与えていると考えられる。騒音低減を目的として設置されている遮音壁は、安全性・遮音効果・経済性を考慮しつつ、実行可能な範囲で景観に配慮して計画・管理することが望ましい。

遮音壁の景観を向上させるためには、事例を参考に各現場が現場条件に応じた最適な方策を見出す方法が有効と考え、事例を収集して遮音壁の景観配慮の着目点および留意事項を提示することとした。

2. 調査方法

各種のマニュアル等14冊について調査し、景観設計の着目点と景観対策を整理した上で現地調査を行うとともに、学識経験者3名、実務担当者5名、道路利用者113名、および沿道住民102名へインタビューし、既往の景観対策の効果と課題、道路用遮音壁の景観配慮の着目点、設計・施工の現状と課題、および遮音壁の景観に関する自由意見等を伺った。

3. 調査結果

各種のマニュアル等の調査およびインタビュー調査の結果に基づき、景観配慮の着目点と遮音壁の景観対策を整理した。さらに、文献、現地撮影およびインターネット等で収集した事例を景観対策別に整理し、景観配慮の着目点および留意事項について解説した。(表参照)

インタビュー調査では、景観の専門家から「道路計画の初期段階から景観について検討し、遮音壁を必要としない、あるいは減らす道路構造とすること」、「壁としてきちんとデザインすること」および「景観を損ねて逆効果とならないように留意すること」等の意見を受けた。行政の担当者から「道路の

詳細設計や維持管理の段階で遮音壁の構造を決めざるを得ない実情」等の意見を受けた。住民から「遮音壁の景観については、さほど気にならない。」等の意見を受けた。これらを考察すると遮音壁の景観を向上させるためには、道路計画の初期段階から意欲ある担当者が主体となって景観の専門家や住民等を巻き込みながら企画・計画することが必要といえる。

4. まとめ

収集した事例は、国総研資料として発行予定である。

表 道路用遮音壁の景観事例(抜粋)

例1: 植栽等による修景	
	
景観配慮項目: 積極的な美しさの創出、心地よい走行景観の創出、沿道環境との調和、存在感の軽減、圧迫感の軽減、単調性の軽減	
特徴: 遮音壁全面に加えて背面にも緑化修景を行っている。前面と背面の植栽の相乗効果によって、緑豊かで美しい道路景観が創出されている。	
例2: 他の道路施設との調和	
	
景観配慮項目: 一貫性の確保、煩雑さの軽減。	
特徴: 遮音壁の支柱位置に照明を設置し、デザインの脈略が確保され、統一感のある景観が創出されている。	